

# 千葉NT投下資金割合、 県・39—UR・61で確定

## 千葉ニュータウン事業について質す

### AED使用率3・6%の向上が課題

**滝田議員** JFAナショナルフットボールセンターの千葉ニュータウンへの誘致について、企業庁はどのように取り組んできたのか。

**企業庁長** 企業庁では平成24年から千葉ニュータウン地区に誘致を図るべく、都市再生機構や地元印西市、千葉県サッカー協会等と連携し、日本サッカー協会と積極的に意見交換を行い、千葉ニュータウンの優れた環境について情報提供してきた。

日本サッカー協会からは、自然豊かな広大な土地を確保できること、成田空港との近接性、地元の積極的な取組等で評価が得られたものの、都心からのアクセスが課題となり、結果として最終的な候補地には至りませんでした。

**滝田議員** 引き続き、JFAナショナルフットボールセンターのような施設の誘致を行う考えはないか。

**企業庁長** 今回の誘致活動で知見や経験等を得ることができた。この知見を活かし、千葉ニュータウンの地域振興に寄与するよう取組んで参ります。

**滝田議員** 今回の誘致活動において、都心へのアクセスが問題だったと思うので、スピード感を持った北千葉道路等のインフラ整備を御願したい。

次に、企業庁とURの投下資金割合はどうなったのか。また、この割合は千葉ニュータウン事業においてどのような意味を持ち、地元市にどのような影響を及ぼすのか。

**企業庁長** 千葉ニュータウン事業については、平成25年度をもって新住宅市街地開発法の事業期間が終了し、その決算を踏まえ、投下資金の割合が、企業庁39%、都市再生機構61%に確定した。また、各市の固定資産税については、投下資金割合で土地の登記が変更され、原則として十分にに応じて課税されることになる。

#### 滝田の要望

千葉ニュータウン事業は約半世紀が経過しても事業が完了しないという現状がある。当事業では約2000haにわたる土地を提供した地元印西の方々が新住事業に協力してきた。このような地元の思いを含め、新住事業が終わっても県が責任を持って、街の顔となるような施設などの誘致・創設を強く要望する。

**滝田議員** 県内におけるAED普及の現状、及び、一般の方が心肺停止の救急現場に居合わせた場合のAEDの使用状況はどうか。  
**保健医療部長** 県内におい



北千葉道路工事状況を視察

ては平成26年9月現在、県有施設に608台、市町村公共施設に3202台、民間施設に2836台の合計6746台のAEDが設置されている。

**防災危機管理部長** 国によると平成25年中に、一般の方が心肺停止者の救急現場に居合わせた件数は全国で25,469件であり、このうちAEDを使用し応急手当を行った件数は907件で、使用率は約3・6%となっている。

**滝田議員** AED使用率向上の取組について、県はどう考えているのか。また、学校では現在、どのように指導しているのか。

#### 滝田の要望

引き続き、より効果的な実施に向け環境整備に努めていく。  
**教育長** 中学校では心肺蘇生法を取上げ、高等学校では心肺停止状態におけるAED使用の必要性を指導している。これらの中で、必要に応じてAEDの体験を行っている。

今後は、救命率とAED使用率の向上に向け部局横断、全庁一体となって推進して頂きたい。是非、AED救命の先進県を目指すことを強く要望する。

## TOPIX

### 印旛沼・カミツキガメ防除事業 現地調査 (6/9)

滝田県議の一般質問による要望を受け千葉県は、印旛沼のカミツキガメ防除事業を強化しています。同事業は平成19年から「防除実施計画」に基づき、県が印旛沼漁協と共同で実施。本年の実施期間は5/28～8/31で、産卵期を迎え活動が活発化する夏に捕獲用ワナを設置。昨年は過去最高の907匹を捕獲。

今後も地元印西で被害が拡大するイノシシ対策や特定外来植物防除に全力で取り組みます。



### 千葉自民党・副幹事長及び 政調会副会長に就任!! (7月3日)

AED条例制定及び北千葉道路早期完成に全力

自民党県議団55名と県下54市町村支部の政策中枢となる政調会副会長及び県連副幹事長に就任しました。今後、一般質問でも取り上げたAEDなど、議員提案の条例制定を活発化するとともに、成田空港と千葉ニュータウンにとって重要な北千葉道路建設推進に全力で取り組みます。



北千葉道路連連事務局長に就任